

領域5インフォーマルミーティング(IM)議事録

文責：西原 大志

日付：2022.3.18

出席者：領域代表・副代表・運営委員6名を含む計30名

<審議>

1. 次々期の運営委員の推薦 → 承認された
2. オンライン大会の定期開催 → 領域5としてはオンラインに賛成
3. 学会の英語化推進 → 領域毎に一任を報告
4. 領域活性化について

<報告>

1. キーワード変更後の講演申込状況
2. 年次大会 学生優秀発表賞の開催

<案内>

1. チュートリアル講演 2件
2. 若手奨励賞受賞講演 2件
3. 招待講演 4件
4. シンポジウム 3件
5. 企画講演提案について

次々期領域5運営委員の推薦

- 大槻 太毅 (京都大学)
- 新城 一矢 (東京理科大学)
- 牧野 孝太郎 (産業技術総合研究所)
→ 承認された

オンライン大会の定期開催の検討

昨年12月に大会理事より、定期的なオンライン開催の利点や問題点などの意見を領域内でまとめることに関して依頼があった。メーリングリストで意見を募り、IMでも審議した。

領域5としてはオンライン大会の定期開催に基本的に賛成。下記が提案・議論。

- 学生の参加費を無料にしてみても？
- 年会の会場探しに苦勞 → 分科会はオンサイト、年次大会をオンラインにしてみても？
- オンラインにしたところで人が集まるか？

→ 今回は韓国物理学会との合同シンポジウムを企画し、外国からの集客を狙う。

学会の英語化推進

去年3月IMで領域内の意見をまとめ、理事会へ。秋山先生から、その結果を報告。

理事会の結論は、領域毎に英語化は判断してほしいとのこと。下記が意見・議論。

- プレゼンのスライド（ポスターも含む）は英語で良いのでは？
- もし英語化するなら（例: 特別セッションなど）、運営委員の案を出してほしい。申込時のオプションは割と融通がきくので、本部に相談してみる。

領域活性化について

企画講演に関して、チュートリアル講演、招待講演は充実しているが、領域5主宰のシンポジウムが直近5大会で1回のみで、寂しい状況が続いている。シンポジウムが増えれば、若手奨励賞の受賞枠の増加に繋がる可能性がある。

- シンポジウム案を気軽に話せるSlackを作る。
- ポスター賞受賞の学生を集めた口頭発表セッションを作ってみては？
← 学生の口頭発表の
- 申し込みキーワードから案を考えてみては？